柏崎刈羽地区租税教育推進協議会長賞
『スポーツを支える税金』
柏崎市立鏡が沖中学校　三年　池田　朱希

私は野球が好きだ。野球は私にとって楽しいだけでなく、様々な人と交流を深めたり、努力することの大切さを教えてくれるとても大切なものだ。

そこで、身近な野球と税金の関係に興味をもった。地方大会や全国大会などで各地の球場に行くと場所によっては施設の老朽化や周りの環境に差があると感じた。なぜ綺麗な状態で野球ができているのか、スタンドや夜間の照明を直すときのお金はどこからきているのか。自分達が普段当たり前に使っているグラウンドや体育館、部室、備品の多くには税金が使われている。また、地方自治体の所有、管理する球場には建設費や維持費、改修費などがあり、その多くが税金で賄われている。

もし税金がなかったらどうなってしまうのか。野球場は草がボーボーの野原になり、設備するお金がないためボロボロの野球場になってしまう。また、試合中に大きな怪我や熱中症になってしまっても救急車を呼ぶことができない。安全な施設で当たり前のように練習や試合ができるのは税金のおかげだったと知ることができた。税金は単なる負担ではなく、私たちが生活するために必要なものであり、私たちがスポーツをしたり、観戦するのを楽しむために必要なものだ。お金持ちだけでなく、誰もが平等にスポーツを楽しむために安い費用で工夫されていることが分かった。

今までは税金と聞くと「大人が払うもの」というイメージがあり、自分にはまだ関係のないものだと思っていた。しかし、スポーツを通して、今の私の生活にも税金が使われていると知り、将来自分が働いて税金を納める場面が増えたら、自分が納めた税金が誰かの生活を支えたり、自分以外の誰かがスポーツを楽しむために役立てて欲しい。

野球は一人では何もできない。全員が違う役割をもち、一人でも手を抜いたり、エラーをするとチームが負ける。税金も同じで、所得税や消費税、住民税など、みんながそれぞれの形で分担して支え合い、誰かが払わなかったり、負担を無視したりすると公共サービスが成り立たなくなる。また、野球には自分が犠牲になり走者を進めるプレーがあるように、税金も自分のためだけではなく、社会全体のために納めることがある。税金はみんなの夢や健康を支える見えないサポーターであり、一人ひとりが安心安全に全力でスポーツを楽しめるように陰から支えてくれている、大切な存在だと思う。

これからは野球ができることを当たり前に思わず、その環境を支えてくれている人たちや税金に目を向け感謝しながらプレーしていきたい。そして大人になった時は、社会の一員として周りの人、社会のために税金を納め、「助け合いの精神」で自分が誰かの生活を支えられる人になりたいと思う。